



別売部品

三菱電機 **ビル用** エアコン
高静圧キット

PAC-KS45PK

取付説明書（販売店・工事店様用）

WT07078X02

※一般的な室外ユニット据付けに関する内容は、室外ユニット本体に添付の据付説明書に従ってください。

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

一般事項

警告

特殊環境では、使用しないこと。

- ◆油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食によるけが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

改造はしないこと。

- ◆冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

電気部品に水をかけないこと。

- ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

掃除・整備・点検をする場合、運転を停止して、主電源を切ること。

- ◆けが・感電のおそれあり。
- ◆ファン・回転機器により、けがのおそれあり。



感電注意

運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- ◆冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



やけど注意

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れないこと。

- ◆火傷のおそれあり。



やけど注意

据付・点検・修理をする場合、周囲の安全を確認すること。（子どもを近づけないこと）

- ◆工具などが落下した場合、けがのおそれあり。



指示を実行

異常時（こげ臭いなど）や不具合が発生した場合、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆お買い上げの販売店・お客様相談窓口ご連絡すること。
- ◆異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

端子箱や制御箱のカバーまたはパネルを取り付けること。

- ◆ほこり・水による感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ◆回転機器に触れると、巻込まれてけがのおそれあり。
- ◆高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆高温部に触れると、火傷のおそれあり。



使用禁止

部品端面に触れないこと。

- ◆けが・感電・故障のおそれあり。



接触禁止

部品端面・ファンや熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ◆けがのおそれあり。



接触禁止

保護具を身に付けて作業すること。

- ◆高電圧部に触れると、感電のおそれあり。
- ◆高温部に触れると、火傷のおそれあり。



けが注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ◆けがのおそれあり。



けが注意

据付工事をするとき

⚠ 警告

梱包材を処理すること。

- ◆梱包材で遊んだ場合、窒息事故のおそれあり。
- ◆破棄すること。



指示を実行

付属品の装着や取り外しを行うこと。

- ◆不備がある場合、冷媒が漏れ、酸素欠乏・発煙・発火のおそれあり。



指示を実行

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

- ◆不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

配管・配線取出し口の開口部は、塞ぐこと。

- ◆小動物・雪・雨水が内部に入り、機器が損傷・故障すると、漏電・感電のおそれあり。



感電注意

モータの軸は持たないこと。

- ◆落とすとけがのおそれあり。



指示を実行

電気工事をするとき

⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

⚠ 注意

配線が冷媒配管・部品端面に触れないこと。

- ◆配線が接触した場合、漏電・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

移設・修理をするときに

⚠ 警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

雨天の場合、サービスはしないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

修理をした場合、部品を元通り取り付け

ること。

- ◆ 不備がある場合、けが・感電・火災のおそれあり。



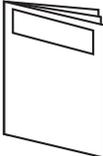
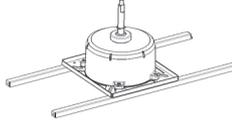
指示を実行

お願い

- 本作業を実施する際は、必ず電源を遮断した状態で実施してください。
- 本作業を実施する際は、電源遮断後プロペラファンが回転していないこと、インバータ主回路コンデンサが DC20V 以下であることを確認願います。詳細は電気配線図銘板を参照ください。
(強風等により、プロペラファンが回転すると主回路コンデンサに蓄電されています。)
- 作業を実施するに当たって、モータのシャフトを持たないようにしてください。
(シャフトを持った場合、シャフトに塗布している防錆油が取れることで、錆が発生する可能性があります。)

<内容物>

高静圧キットの箱の中には下記の部品が入っています。作業を始める前にご確認ください。

品名	①据付説明書	②高静圧キット	③ラベル	④パイプカバー	⑤結束バンド
外観					
所要数	1	1	1	1	3

<作業手順>

高静圧キットを取り付けるにあたっては、以下の手順で実施願います。

手順 1：ユニット電源を遮断し、ユニットのファンガードおよび前パネルを取り外します。

手順 2：室外ファンが回転していないことを確認し、制御箱の前カバーを取り外します。

インバータ主回路コンデンサが DC20V 以下であることを確認し、ファンインバータ基板上的コネクタ (CNINV と CNSNR) を抜いてください。室外ファンが 2 基搭載された機種 (図 1-B、2-B) は、ファンボックス内のファンインバータ基板についても同様の作業をお願いします。
ファンインバータ基板については、電気配線図銘板を参照ください。コネクタ位置は図 4 を参照ください。

手順 3：P6 の<取り外し方法>に従いモータキットを取り外します。取り外しの際、配線経路が元通りになるようにご注意ください。

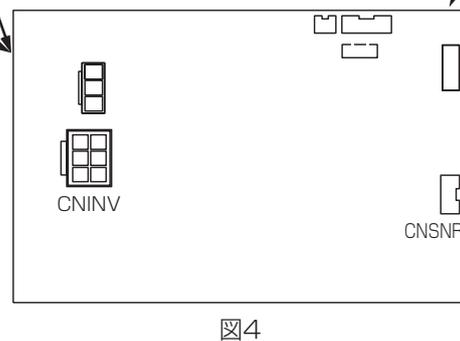
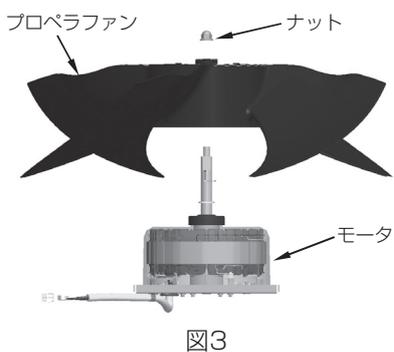
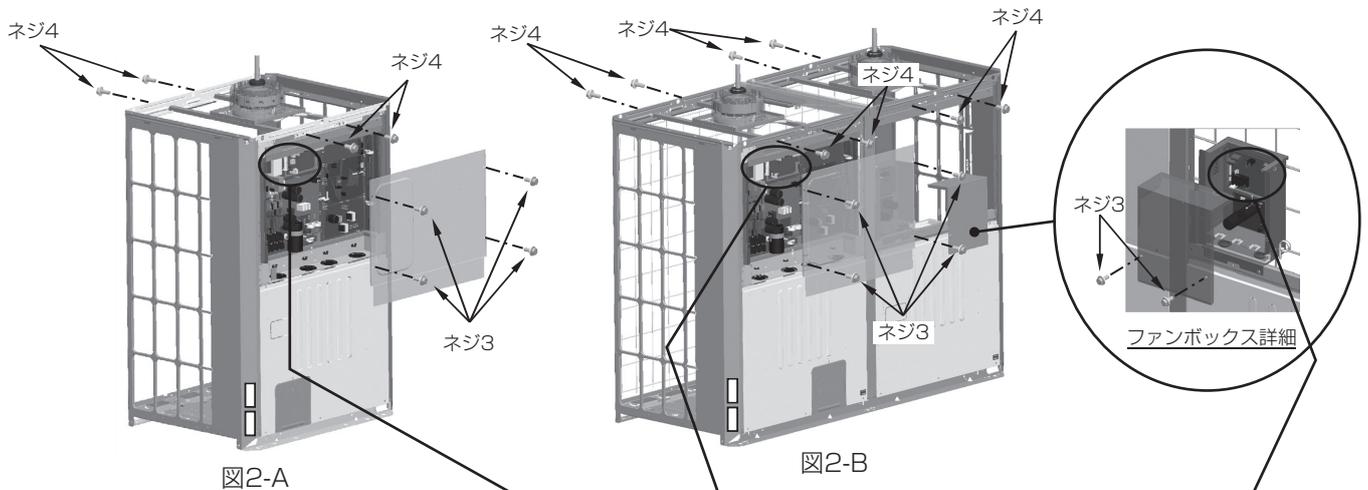
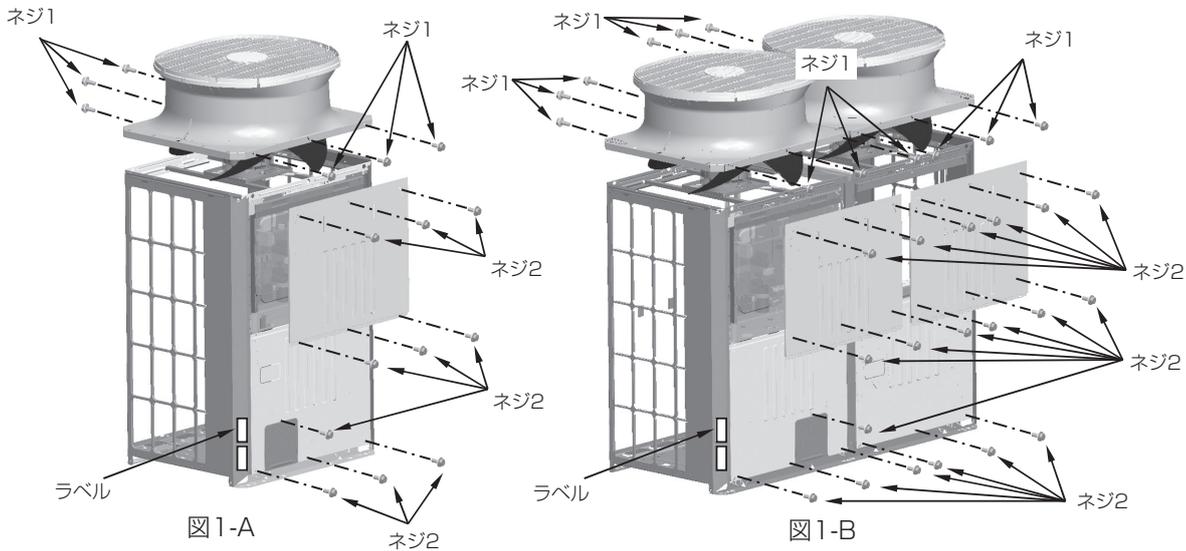
手順 4：P7 の<取付け方法>に従い高静圧キットを取り付け、ファンインバータ基板のコネクタ (CNINV と CNSNR) を挿します。その際、配線経路や結束バンドの位置を元通りにします。

手順 5：室外ユニット制御基板上的 SW6 を<高静圧モード設定方法>中の表 1 の通り、所定の設定静圧に変更します。

手順 6：制御箱前カバーおよびユニット前パネル、ファンガードを取り付け、電源を投入します。

<取り外し方法>

1. 図 1-A、1-B に記載している室外機に対して、ネジ 1 およびファンガードを全て取り外してください。
2. 図 1-A、1-B に記載している室外機に対して、ネジ 2 および前パネルを全て取り外してください。
3. 図 2-A に記載している室外機に対して、ネジ 3 および制御箱の前カバーを、図 2-B に記載している室外機に対して、ネジ 3 および制御箱の前カバー、ファンボックスの前カバーを全て取り外してください。
4. 図 3 に記載されているナットおよびプロペラファンを取り外してください。
 ※図 3 に記載されているナットは、逆ネジ（緩む→時計回り）になっているので、緩める方向にご注意ください。
5. 図 2-A、2-B に記載されている室外機に対して、ネジ 4 を取り外してください。
6. 1 から 5 を実施した後、モータキットをユニットから下ろしてください。尚、モータの重量は約 20kg あるため作業時の体勢にはご注意ください。



<高静圧モード設定方法>

制御基板 SW6 を表 1 のように設定することで、指定した静圧設定となります。

SW6 については、電気配線図銘板を参照ください。

表 1 静圧設定方法

設定静圧	SW6-4	SW6-5
30Pa	ON	ON
60Pa	ON	OFF

<取り付け方法>

1. P6 の<取り外し方法>の作業手順を逆手順で実施してください。
取り付けの際、ネジおよびナットはすべて確実に所定の位置に取り付けてください。
また、締結トルクは、表 2 の値に設定してください。
なお、ナット締結の際、プロペラファンとモータシャフトの挿入部が D カット構造になっていますので、確実に挿入されていることをご確認ください。
2. 図 1-A、1-B に示す様に付属品のラベルを定格メイバン上に貼り付けてください。

表 2 締結トルク管理表

	締結トルク	備考
ネジ 1～4	$2.7 \pm 0.2\text{N} \cdot \text{m}$	—
ナット	$20.0 \pm 2.0\text{N} \cdot \text{m}$	逆ネジのため方向に注意願います。

三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)
〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所(073)436-2111

WT07078X02